



妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行います (大阪市版ネウボラ)



出産前

- 母子健康手帳を渡す時に保健師が面談。地域担当保健師をお知らせ
- 妊婦教室やプレママ・プレパパ教室



生後1～5か月

- にこにこ赤ちゃん広場 (3か月児・1歳6か月児・3歳児)
- 親子の絆づくりプログラム 「赤ちゃんがきた!」

乳幼児健診時

子どもの成長を継続して
フォローアップ

4歳児訪問

家庭などを訪ね、
絵本を使った健康
教育や子育て相談

保育施設との連携

専門職員が
保育施設へ出向き、
一緒に困りごとを解決



みなさんの
健康づくりを
応援します

大畑有紀 (保健主幹)

健康に関する相談を、
どうぞお気軽に

保健師はあなたの健康サポーター 窓口で 地域で 応援します

私たち保健師は、赤ちゃんから高齢者まであらゆる年代の健康づくりを応援するサポーターです。
区役所1階の健康相談窓口(13番窓口)で健康に関する様々な相談を受付けています。(予約不要)

- 妊娠、出産、子育てに関すること
- 生活習慣病などの健康づくりに関すること
- 介護予防・認知症予防に関すること
- こころの健康に関すること
- 感染症に関すること

地域担当制で活動しており、健康づくりのため、みなさんと地域のつながりをつくる支援も行っています。

こころの健康を
担当しています

藤井景子
(精神保健
福祉相談員)



神尾直佳
(担当係長)



蒲田脩圭里
(西天満・菅南・
曾根崎・北野・滝川)



齋藤千乃
(豊仁・本庄)



前田裕子
(豊仁・本庄)



秦 隆樹
(済美)
(健康危機管理
担当)



平岡真由美
(豊崎東)
(健康危機管理
担当)



田島 結
(豊崎東)



中村美柚香
(大淀西・大淀東・
北天満)



加賀尾柚佳
(菅北・豊崎)



高田史佳
(中津・堂島・中之島)



三宅紗世
(堀川・梅田東)

似顔絵: 山本正美さん (北野地域はつらつ脳活性化教室サポーター)

健康課 ☎06-6313-9968 📠06-6362-1099

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちのSDGs③7

地球規模の環境問題や社会課題の解決も、まずは一人ひとりの小さな実践の積み重ねから。持続可能な開発目標 (SDGs) 達成への貢献をめざす大阪・関西万博に向けて、みんなで取り組む「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジから北区での活動をご紹介します。

「ステハジ」プロジェクト



ペットボトルの削減めざし マイボトル&給水スポット

中原咲紀さん

「ステハジ=使い捨ては恥ずかしい」は、水の総合メーカー、株式会社OSGコーポレーション(天満1)が取り組むプロジェクトです。2020年の創業50周年記念事業として19年にスタート。「SDGsバッジをつけた人がペットボトルを捨てるのを見て、おかしいと感じた若い社員の発言がきっかけでした」とBOSS部の井上祐貴さん。賛同する280の企業や自治体、団体が共創メンバーに加わりました。

チャレンジの柱は二つ。一つは「ペットボトル削減」です。マイボトルを持ち歩くことで、年に234億本生産されるペットボトルを50億本減らすことをめざします。家庭用機器事業部の中原咲紀さんは「誰でもいつでも、少しの意識と行動で始められるのがいいところだ」と話します。

でも外出先でボトルの水がなくなったら――。そこでもう一つの柱は「給水スポットの拡大」です。学校や職場、公共施設、ドラッグストア、飲食店など様々な場所で給水できれば、熱中症対策にもなります。中原さんの営業先の会社は、17営業所全てに導入したそうです。「社員さんの机の上のペットボトルがマイボトルに代わるのを見て、うれしかったですね」

大阪・関西万博まで2年となり、啓発イベントも盛んです。海洋へのプラスチックごみ流入は深刻で、「このままでは2050年には魚の量を超えてしまう」とされる社会課題。イベントでは、並べた水槽の片方にアジ3匹、もう片方に魚と同じ重さのプラごみを入れてもらいます。「こんなに多いの!」との驚きが、ごみを減らす小さな行動へとつながります。



啓発イベントで、左の水槽のアジと同じ重量のプラごみを右の水槽に入れ、海洋汚染を実感

共創チャレンジ・ステハジプロジェクトのページ▶



ステハジのInstagram▶



あなたの夢は?

神社の杜を、人が出会い、 つながる場に



(左から)なかがわさん、木澤さん、久野さん

毎月第3日曜日、豊崎神社(豊崎6)の境内に、手作りパンやお菓子、鯉のわら焼き、焼き鳥、アクセサリーや雑貨など、様々な店のテントが並びます。ご神木の下では紙芝居やチンドン屋といったパフォーマンスも。ゆったりした時間が流れます。

8年目を迎えた「豊崎じんじん」のルーツは、地元

で長く愛された野菜の朝市だそうです。いつしか傍らでコーヒーをいれる人が現れ、そこに「うちで焼いたお菓子も置かせてもらえたら」と声を掛けたのが、本庄西で食堂を営む木澤夏実さん。今は運営の中心です。

「じんじん」と命名したのは、中崎西で帆布バッグを作るなかがわやすしさん。「神社の杜の中、いろんな人々(じんじん)がにぎやかに集い、心に体にじんじんくる、そんな場に」との思いを込めました。コロナ禍による中断もありましたが、「最近は近隣のファミリーを中心に来場者が増え、地元に着着してきたと感じています」。

日本酒のテントを出しているのは行政書士でもある久野惣司さん。5年前、北区で仕事を始め、「地域で活動したいなあ」と願う中で、じんじんに出会いました。「僕が受け入れてもらったように、新しい人をどんどん受け入れたい」

地域を盛り上げるべく、運営は全てボランティア。木澤さんは「じんじんは、ただ物売るだけではなく、やりたいこと、発信したいことを実現するための場であってほしい」と話します。「だから続けていくことが大事だと、改めて思うようになりました。まずは一度、遊びに来てください」

今回は6月18日(日) 10:00～15:00。パフォーマンスは午後にあります。



緑豊かな境内に
テントが並び

夢・キタ・ひと

⑭

ツキキチマルシェ
豊崎じんじん実行委員



豊崎じんじんのInstagram▶

北区の魅力は?

やりたいことが叶う場所